



Title	癌と人 第39号 目次
Author(s)	
Citation	癌と人. 2012, 39
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/21387">https://hdl.handle.net/11094/21387</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

◎ 題 字 ◎

公益財団法人 大阪癌研究会  
元理事長 千代賢治



\*表紙絵解説

「蟹」のいわれ

蟹の絵は川俣順一大阪大学名誉教授にお願いして描いてもらったものである。

癌に関係ある学会のシンボルマークに蟹の図案化したものがよく用いられている。

癌と蟹の関係の歴史は遠くギリシャ時代にさかのぼる。ギリシャの医聖ヒポクラテス著述のところどころに、今日私どもがいう癌と思われる記録がある。ヒポクラテスはそれを「カルキノス」と呼んでいる。カルキノスというのは日常一般に用いられていた言葉で、蟹のことである。ヒポクラテスが記述しているという病気（癌）の格好が蟹に似ていたのでそれを呼び名とした。

今日、欧米では日本でいう癌をカルチノーマと呼んでいる。それはカルキノスという言葉からきたもので、両者は同義語である。

ヒポクラテスはカルキノス（蟹）という日常語を純然たる医学語とした人である。癌と蟹の関係はそれ以来続いている。

ご あ い さ つ	1
田 口 鐵 男	
生活習慣の改善によるがん予防	2
田 口 鐵 男	
PET 検査をめぐる～PET（ポジトロン断層撮影）は、がんの診療にどこまで有用か～	9
高 見 元 敏	
『紅梅』と癌の告知	14
小 川 道 雄	
CT でがんになるのか	17
中 村 仁 信	
漢方薬でがんを治すことができるのか？	20
岩 永 剛	
「よかったね！早期発見。みんなの笑顔」	
特定非営利活動法人ピンクリボン大阪の誕生	32
富 尾 貴 美 代	
熱ショック転写因子 HSF1 の抑制による細胞老化の誘導機構	38
小 田 司	
ヒト細胞遺伝子改変法による <i>BRCA1</i> ヘテロ欠失の分子病態解析－抗癌剤への反応性について－	39
小 西 裕 之	
多発性骨髄腫における新規遺伝子異常の同定と解析	40
坂田(柳元)麻実子	
p53 に制御される non-coding RNA の同定：バイオマーカーとしての有用性と分子標的への応用	42
佐 々 木 泰 史	
癌ワクチン治療の効果予測に有用な新しいバイオマーカーの開発	43
笹 田 哲 朗	
RCAS1 をターゲットとした新たながん分子標的治療開発に関する研究	45
園 田 顕 三	
切除不能腺癌に対する塩酸ゲムシタビンと Vascular Endothelial Growth Factor Receptor 2 (VEGFR2) 由来エピトープペプチドを併用した新規免疫化学療法法の確立	46
谷 眞 至	
新規乳癌関連分子の細胞分裂制御能の解析による発癌機構の解明と治療法の開発	48
千 葉 奈 津 子	
悪性脳腫瘍細胞の遊走と脳内微小環境	49
中 田 光 俊	
ナノ粒子アシスト型がん化学療法の開発	51
長 崎 幸 夫	
乳癌の EMT を介した浸潤性質獲得と転移部位における休止と再発の分子機序の解明	53
橋 本 茂	
造血器腫瘍の移植治療における MSC（間葉系幹細胞）共移植療法の開発（霊長類モデルを用いて）	55
増 田 茂 夫	
・平成 22 年度事業報告	57
・平成 22 年度収支計算書等	60
・平成 23 年度寄付者ご芳名	66
・平成 24 年度事業計画書	67
・平成 24 年度収支予算書	68
・公益財団法人大阪癌研究会役員名簿	70
・公益財団法人大阪癌研究会定款	71